

## 牡蠣殻へのロゴ転写を可能にする養殖用基質の開発

Development of Logo-engraved Substrates for a Marking on Oyster Shells

材料技術部 執行 達弘・森 武士・野村 隆文

### ■研究の背景

牡蠣の養殖は、ホタテガイの貝殻に稚貝を付着させた後、それらを、ひと連なりにしてイカダから海中に吊るす「原盤養殖」と呼ばれる方法で行われています。一方、近年、牡蠣の産地ではブランド化に力を入れています。ブランド牡蠣とそれ以外の見分けが難しいことが課題となっています。そこで道総研栽培水産試験場では、ホタテガイの代わりに、ロゴとなる凹凸の模様がある板状の材料（基質）を用い、稚貝が成長する過程で貝殻にロゴを転写させようという非常に独創的な技術の開発を始めました。

当场では、既存の材料より稚貝が付着しやすく、ロゴの転写が可能で、強度と耐水性に優れた新しい基質の開発に取り組んでいます。

### ■研究の要点

1. 基質材料の試作および強度と耐水性の評価
2. 成形方法の検討



### ■研究の成果

1. 当场で技術移転の実績がある「焼成工程を必要としないタイル」の製造方法を応用して試作した基質材料は、焼成タイルと同等の強度をもち、静水中では3ヶ月以上形状を保つことを確認しました。しかし、流水中では短期間で崩壊することが明らかになり、さらなる耐水性の付与を目指して研究を継続しています。
2. 一般的なタイルの製造方法のひとつであるプレス成形と、漁業者が簡便に製造できる成形方法を検討し知見を蓄積しました。今後、現場での実証試験を行う予定です。